

臘の獨立、一八三〇—四一の東方問題、クリミア戦争、ルーマニヤ國の成立、露土戰役前後の経過を歴叙し、進んでバルカン諸國の實狀、新勢力獨逸の近東政策、マセドニヤ問題青年土耳其黨の革命運動を論じ、引き続きバルカン同盟、バルカン戦争より一九一四—一六の最後の戦亂に説き及ぼせり、卷中處々に肝要なる地圖を示し且つ附録に土耳其及バルカン諸邦國の君主系統表及最近百年間に於ける土耳其の版圖並に人口減少表を擧げたり。土耳其の國運、バルカン問題の推移を簡便に知らんとするもの、爲には甚だ有益なる著書なるべし。(以上種村)

●日本石器時代人民遺物發見地名表(東京帝國大學發行)
我が國に於ける石器時代の遺跡遺物の發見地を表記して、考古學的研究に多大の便宜を與へたる東京理科大學人類學教室編纂の「日本石器時代人民遺物發見地名表」は、明治三十四年第三版を出してより久しく改版増補の事なかりしが、今回柴田常惠氏専ら事に當り、大に補訂を加へ第四版を發行せるは斯界年來の希望を滿せるものと云ふべし。本書は増補の爲め、紙數五百頁に近く、取むる所の遺跡總數が五千を越ゆ、第三版の三千一百餘に比すれば其の増加著しきを見るべきなり。殊に畿内、山陰道、九州等の從來比較的遺跡の少かりしに地方に於て増加の六なるあるは研究上注意に値する所なり。編纂の體裁は畧に第三版に等しきも、今次の

出版に際しては、發見地排列に就て最も見易き畿内七道の順を採り、新に神太を加へ又檢案に便ならしむるに意を用ひ、又重複記事の訂正に注意し、前版に於ける誤謬を訂正せることの著しく認めらるゝは最も喜ぶべし。方今石器時代研究の機運の盛んなる時に當り本書の出版は研究者のため好同伴を得たるものと云ふべし。望外の感を云はば、故坪井博士のコロホツクル論を巻頭に載せることは本書の由來上必要の事とするも、其の後、石器時代の人類に關する諸方面の研究著しく進歩し、博士の時代に比するに斯界の面目一新の有様なれば、之に關する研究の梗概なりとも附載せられて可なるべく、又前版まで追記に供する爲の卷末の餘白紙は新版にも加へらるべかりしこと是なり。(價一、二〇 丸善發賣)

〔梅原〕

●武相郷土史論

日本歴史地理學會編

大正五年十月より同六年四月まで前後十一回に亘りて催されたる横濱地理歴史研究會の講演筆記に校訂を加へて出版したるものにして、「上代の武相」(文學博士喜田貞吉氏)、「鎌倉武士」(八代國治氏)、「後北條氏の武相經營」(文學博士田中義成氏)、「ウイリアム・アダムスと江戸時代初期の西洋交通」(文學博士辻善之助氏)、「米使ペリーの渡來」(文學士岡部精一氏)、「ハリスの渡來」(文學士大塚武松氏)、「城郭の變遷と武相」(文學博士大塚伸氏)、「江戸